

「断片を結ぶ」 ～愛が結び合わせる！！～

コロサイ 2：2, 3 3：13-15

あなたはパソコンのデフラグをしたことがありますか。パソコンはデータを記憶するとき、決まった大きさにして記憶するため、大きなデータは分割（断片化）され、離れた場所に記憶されてしまいます。そのため使い続けていくとファイルを探すのに時間がかかり動作が遅くなってしまいます。これを解消するためにする作業がデフラグです。これを行うことにより断片化されたデータは隣り合った場所に記憶し直され、探し出す速度が回復しパソコンが最適の状態になります。パソコンはこの作業を1ヶ月に1回程度すれば快適に使い続けることができます。ではこの作業はパソコンだけに必要なものでしょうか。いいえ、これは私たちの記憶にもいえることで、私たちが生きていく上で記憶を整理しておくことはとても重要なことといえます。しかもそれはパソコンのように月1回ではなく、毎日していく必要があります。

コロサイ2：2, 3及び3：13-15には愛によってすべてが結び合わされることが書かれています。私たちの生きている社会は、普通という概念に照らし合わせてそれに合わない人、例えば落ちこぼれの人は排除する社会です。しかし教会はそのような考え方をしません。私たちは神様の創造物であるそれぞれ違う人格をもつ人々を尊重し、かしらであるイエス・キリストに基づいてひとつ目的をもって進む集まりです。しかしその中にも偏った価値観を持つ人が出てきたり、それにより分裂、分派が起きたりすることはあります。ではなぜそうなるか。その原因はその人が歩んできた人生のうちの断片化された記憶にあるかもしれません。きちんと整理されている記憶は始めから結論があり、その出来事について記憶します。しかし、もしきちんと整理されていなければ、その出来事ではなく、自分が傷ついたり嫌だったりした感情や、そうさせた相手は誰だったかなどを記憶してしまいます。あなたの記憶の中にそのような部分はありませんか。神様はあなたに起こったことをただの出来事として終わらせず、そのことを通して様々なことを教えようとしています。そのことにあなたは気づかなければいけません。そのことに気づいたダビデは「苦しみ会ったことは私にとって幸せ」と歌いました。彼はどんな状況の中にあってもそのことを通して神様のおきてを学んでいました。私たちもダビデと同じように学ぶことができます。そして、私たちはどんなときでも神様がいつもそばにいてくださり、決してひとりではなかったことを感じることができるのです。

私たちの記憶を整理することが大切であるというのは、次のことからいえます。今年3月に起こった東日本大震災。あなたはどのように記憶していますか。ただ大変な出来事で終わらせてはいませんか。先日、福島県南相馬市を訪問した際、報道ではわからない実態を知りました。この場所で多くの方が亡くなり、地の叫びを聞きました。この地域は大昔にも津波があった場所だそうですが、そこに住む人々にとっては当然思い出したくない過去であり、そのことが伝えられず活かされず、あの日、多くの命が失われたことも知りました。怖いことに、私たちは二度と繰り返さないと思って備えても時が経つにつれその気持ちが薄れてしまい、ついには忘れてしまうのです。震災が起こり防犯グッズをそのとき慌てて買って何ヶ月か経つと荷物に埋もれてどこに置いたか分からなくなったり、非常食もいざ必要な時は期限が過ぎていたりするもののためです。この震災で1万人近くの方が亡くなりましたが、そのことでさえ私たちは日常生活の中で記憶の片隅に追いやられ埋もれさせてしまうのです。この日本で起こった大きな出来事がいつの間にか他人事のようにになってしまうのです。これは大変怖いことです。私たちはこのことを過去の事として忘れてはいけません。このことを通して今、生きている私たちがどのように生きるかを考えていかなくてははいけません。それはなにかを上げてあげるといっておがましい思いからでなく、自らのために生きる人生をやめて人のために生きること、自分に死んでキリストのいのちで生きることを意味します。そのために必要なのが、記憶のデフラグです。あなたは正しく記憶していますか。記憶が断片化しているとその場では許し、愛そうと決めますがいつの間にか許したことを辛い過去に変えてしまいます。また、問題を神様と解決し委ねても、同じような事が起きると、昔整理した記憶をもう一度書き換えて記憶するため、最初はきちんと整理しても次に断片化して記憶してしまうと、同じような事例があったときそのことをもうやらなくなったり異常なほどに腹を立てたりしてしまうようになります。そうしなければなかなか自分自身では直せなくなります。ですから起こったことはそのときそのとき、きちんと整理し解決して記憶していきましょう。

このクリスマスのとき、もう一度人生を省みて、自分の過去を神様に委ねていること、そして神様に愛されていることを確認しなければいけません。今、被災地で絶望している人たちは、私たちのように記憶を整理するには困難な状況にあります。彼らを、また同じように苦しみの中にいる人を助けるために私たちが導く働きをするためには、私たち自身がまず神様の前に一度壊れてしまった過去の記憶を直し、整えていかなければいけません。あなたは神様に愛され、必要とされ、導かれていることに気づかなければいけません。自分にとって嫌な事があったとき、相手を裁くのではなく愛し、許し、学んだことを思い起こさなければいけません。私たち自身それぞれに辛い道を自分が耐えられるギリギリのところまで通ってきました。しかしあなたがキリストを信じたとき、神様によって解決されたその過去の記憶は全て意味あるものに変えられました。神様を信じる前の辛かった頃の記憶を思い出そうとしても、その辛かった思いは神様によって取り去られているはずですが、もし前のほうがよかったと思う心があるならば、過去の古傷によって整理されずにいる記憶があるのかもしれませんが。そのようなことのないよう、その日起こったことをその日のうちに、どうしてそのことが起こったか、そのことで何を考え学んだかについて、記憶の整理をしていきましょう。また、あなたの周りに苛立つ行動をする人がいるならば、それはお互いを研ぎ合う友です。もし友が神様にふさわしくないことをしているのであれば、そのことで祈り、確信をもって友とともに変わらしましょう。このことを通してあなたは神の奥義である愛を知ることになります。愛によって語れば相手も聞き入れることができ、人は結び合わされ変えられるのです。

まとめとして、「**愛は結びの帯～キリストの愛によってあなたの過去と未来が結ばれる～**」神様によって多くの方があなたに結び付けられようとしています。しかしあなたが断片化された記憶のままであると、言うことや態度がその時々で違うあなたの姿にその人々が疲れてしまいます。そのようなことのないようにあなた自身が過去と未来をきちんと結び合わせましょう。「**愛は結びの帯～キリストの愛によってあなたと隣人が結ばれる～**」（エペソ4：13-16、コロサイ2：19）結び目はなんのために必要でしょう。それは私たちの不足が完全なひとつとなるためです。自分の中に不足があることに気づいたときそれは結び合わされ満たされます。それが神様の愛の結び目です。私たちは今がよければそれでよい、という生き方をもうしません。人生最期のとき、自分の生き様が正しい種となってこの地に落ちるよう神様に変えられました。そこには自分と神様だけでなく隣人もいます。不必要な人は誰ひとりいません。隣人と一緒に結び合しましょう。「**愛は結びの帯～キリストの愛によってあなたの属する体が実を結ぶ～**」あなたが変わらなければ周りがいくら頑張っても絶対変わりません。自分が変わらなくても、自分がいなくても、なんて思わないでください。教会はキリストのからだであり、あなたはそのからだの大事な器官です。あなたがいなければ、じきに全体が滅びてしまうのです。もし自分に傷があるならば、神様によって完治させなければいけません。ヨハネ15：4,5,12-17にあるとおり、あなたは神様に選ばれました。ですから自らが神様が召命されたことを拒否することはできません。神様についていこうと決めたあなたは、生涯愛を持って仕えなければなりません。そうすることで、あなたは隣人を愛し、また愛され、あなたの存在により実が結ばれるのです。

最後に、マイナスな記憶が何のためにあったのかその学んだことをもう一度思い起こしましょう。神様は二度と同じ痛みにあわないよう備えてくださり、互いに愛することを教えてください。苦しみを喜びに変えましょう。忘れたいほど嫌な記憶を神様とともに解決し委ね、神様がなぜそのことにあわせたのかを知り記憶しましょう。そして、過去と未来を結び合わせ、隣人と結び合い、ひとつからだとなって実を残していきましょう。

（要約者：金光 瞳）